平成24年度　企業間等連携支援事業（Aタイプ）
会津漆器協同組合 青年部（福島県）

「未来の会津塗産地形成へ向けた人材育成事業」

【事業目的】

東日本大震災、福島原発事故による急速な売上の減少に直面し、殆どが零細事業体により成り立つ『会津塗』産地は、かつてない状態にまで疲弊している。産地の弱体化は、伝統技術の消失、ひいては分業制をとる漆器産地自体の存続を危うくする状況を招きかねない。

『会津塗』が、将来にわかって消費者に求められる伝統工芸品であり続ける為、改めてその価値を見直し、それを実現できる産地体制を構築する取り組みを行う事が、必要不可欠である。

本事業では、職人・商人等、また、関連する業種も含め、多くの事業体・従事者を内包する産地全体を活性化させ、『会津塗』産地の発展を通して、地域づくりへの貢献を図るべく、時代を担う若い世代の人材育成を図る。

【事業実施状況・成果】

会津若松市を中心に開催された「会津・漆の芸術祭2012」(以下、芸術祭。平成24年10月6日～11月23日開催)に合わせ、我々漆器組合青年部による「漆のウォールアート」事業を開催した。

芸術祭の会場でもある市内ギャラリー「蔵舗」の駐車場壁面に、芸術祭参加者が自ら蒔絵の技法を用いて、図案を描き、期間終了までに一枚の壁画を完成させる体験型のアートイベント「漆のウォールアート」である。

テーマを「天空の刻」とし、夜空に広がる天の川を描くべく、星をひとつひとつ参加者に描いていただくこととした。

木板の壁面を黒く塗りあげ、大まかな意匠を我々で描いておき、参加者には漆を星型をかたどったスタンプで押していただいた後、金粉を用いた蒔絵の技法で天の川を描いていただいた。

準備として、会場壁面の板壁を、作業場とした漆器組合倉庫に撤去・搬入し、全体を黒漆で塗装。そのうえで、本年観測された金環日食と、古来天空観測に用いられた天空儀の意匠を描いた。

その後、芸術祭のオープニングに協力後、壁面を会場へ設置。計6日間にわたり「漆のウォールアート」事業を展開し、100名を超える参加者により、ウォールアートを完成させる事ができた。

【今後予想される事業効果】

現在、我々漆器組合青年部の多くが、事業として「漆」に日々取り組んでいる中、いかに消費者に求められる将来の「会津漆」像をまとめる事ができるかは、特に若い世代にとって大きな課題である。

本事業を通じ「漆」を伝統ある工芸品として捉えるのみならず、「芸術」という新たな視点から見つめ直し取り組んだ会員が、新たな「漆」の可能性を見出すきっかけとなったと考える。また、普段は分業制により、木地制作・塗装・加飾・販売とそれぞれ専門的に漆に取り組む我々が、ひとつの作品を仕上げる課程を全て体験し、また、初めて漆に触れる来場者とコミュニケーションを取る経験を通じて、改めて「会津漆」の現在の立ち位置を考える機会を得られた事は、必ず将来の業界内における連帯を強め、新たな取り組みに繋がると考える。